

『下馬・野沢地区における防災意識や 防災・避難体制の実態と課題』

(1) 子ども意識 調査

(2) 避難支援 調査

(3) 避難経路 調査

2026年2月11日(水・祝)

宮脇ゼミナール8期生

佐瀬翔希 清水光流 須田実侑

小峯康成 佐橋将也 岩村和奏

本名康祐 川島理久 屋宜歩真 北村綾菜

①. はじめに **研究目的** 3つの観点から

②. 1グループ目 【子ども意識 調査】

アンケート実施 **小学校**

③. 2グループ目 【避難支援 調査】

④. 3グループ目 【避難経路 調査】

ヒアリング実施

町会長 **住民** **世田谷区**

⑤. 3グループ まとめ 課題 解決策

巻末 ヒアリング調査 詳細

研究について

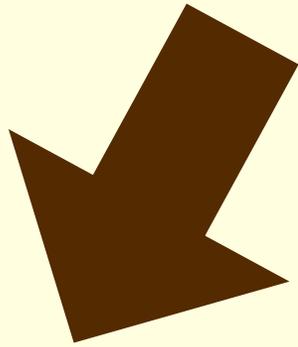
下馬・野沢地区 防災訓練や取り組みに熱心
町会の「防災意識の高さ」

一致？ ⇕ 疑問

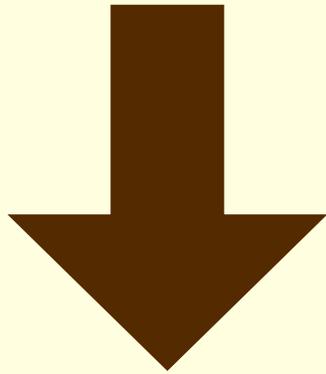
「子どもたちの防災意識」「実際の避難支援」
「実際の避難行動」

いざという時の行動レベルまで浸透？

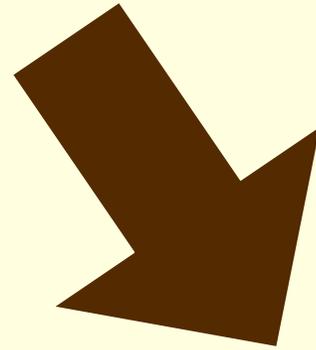
『下馬・野沢地区における 防災意識や防災・避難体制の実態と課題』



子どもの意識

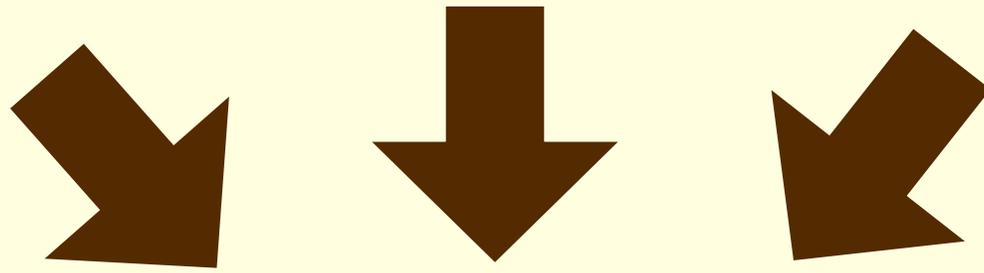


避難支援



避難経路

研究目的



下馬・野沢地区における

防災意識や

防災・避難体制の実態を明らかに

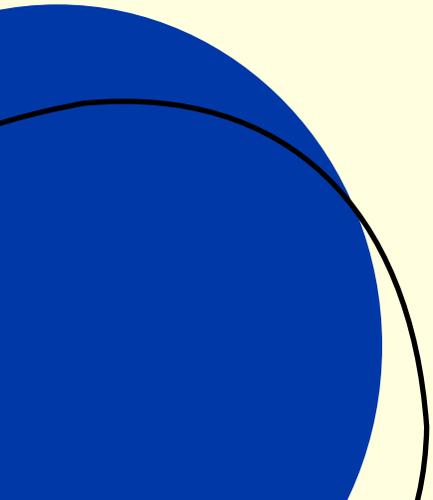
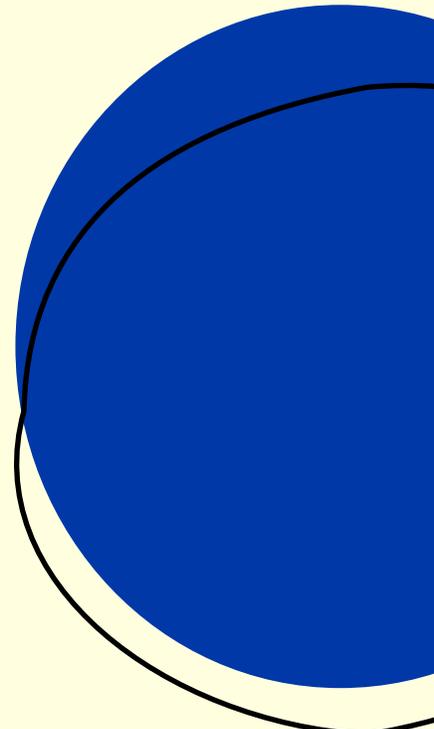
課題や不安要素・解決策を整理・分析
地域の実情に適した対策を考案するため
防災体制をより強固なものに

(1) 子ども意識調査



研究内容

子供たちの防災に対する意識
(防災、避難、コミュニケーション)



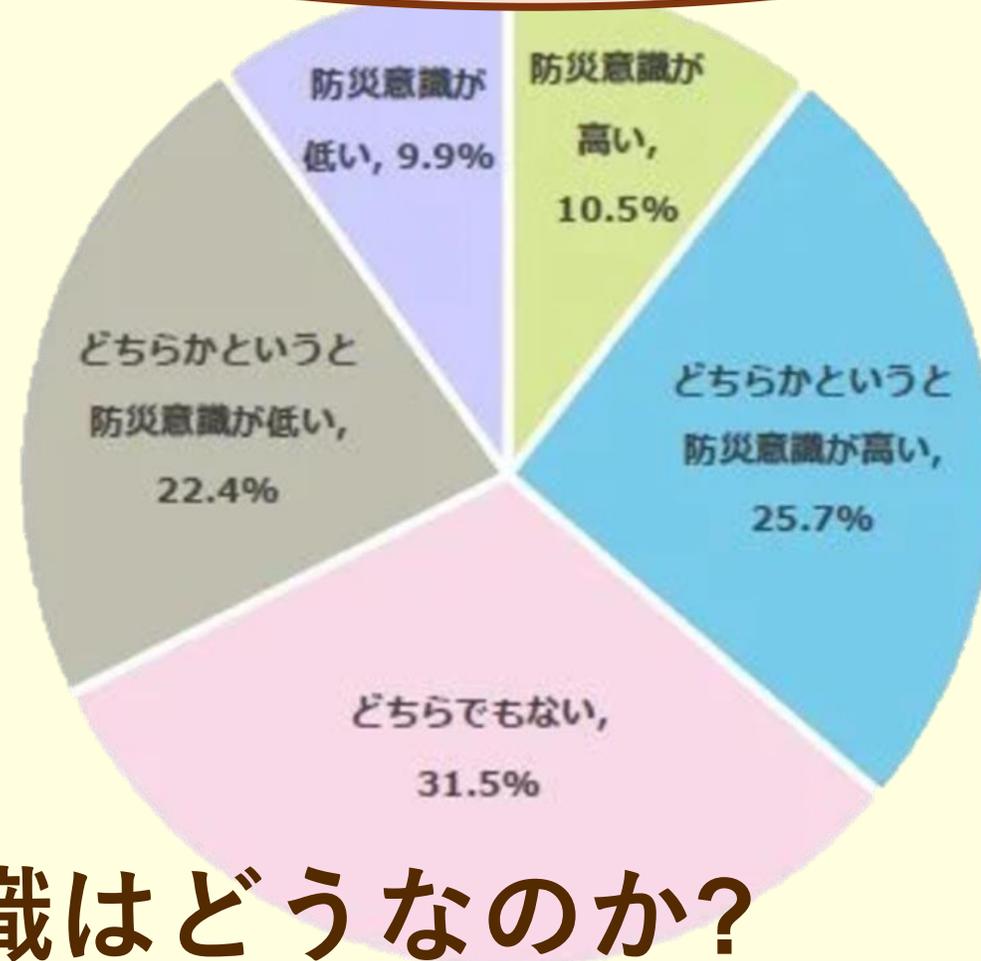
先行研究

- ・ 防災意識が高い子が少ない
- ・ 親が把握していない家庭も多い



下馬野沢地区の子どもの意識はどうか？

お子さまの防災意識について
どのように感じますか？





研究方法

- ・ アンケート調査
... 下馬・野沢地区の小学の高学年を対象にした
アンケートを実施
- ・ ヒアリング調査
... 世田谷区で行われる行事に参加
参加者を対象に聞き取り
- ・ 資料収集

研究方法

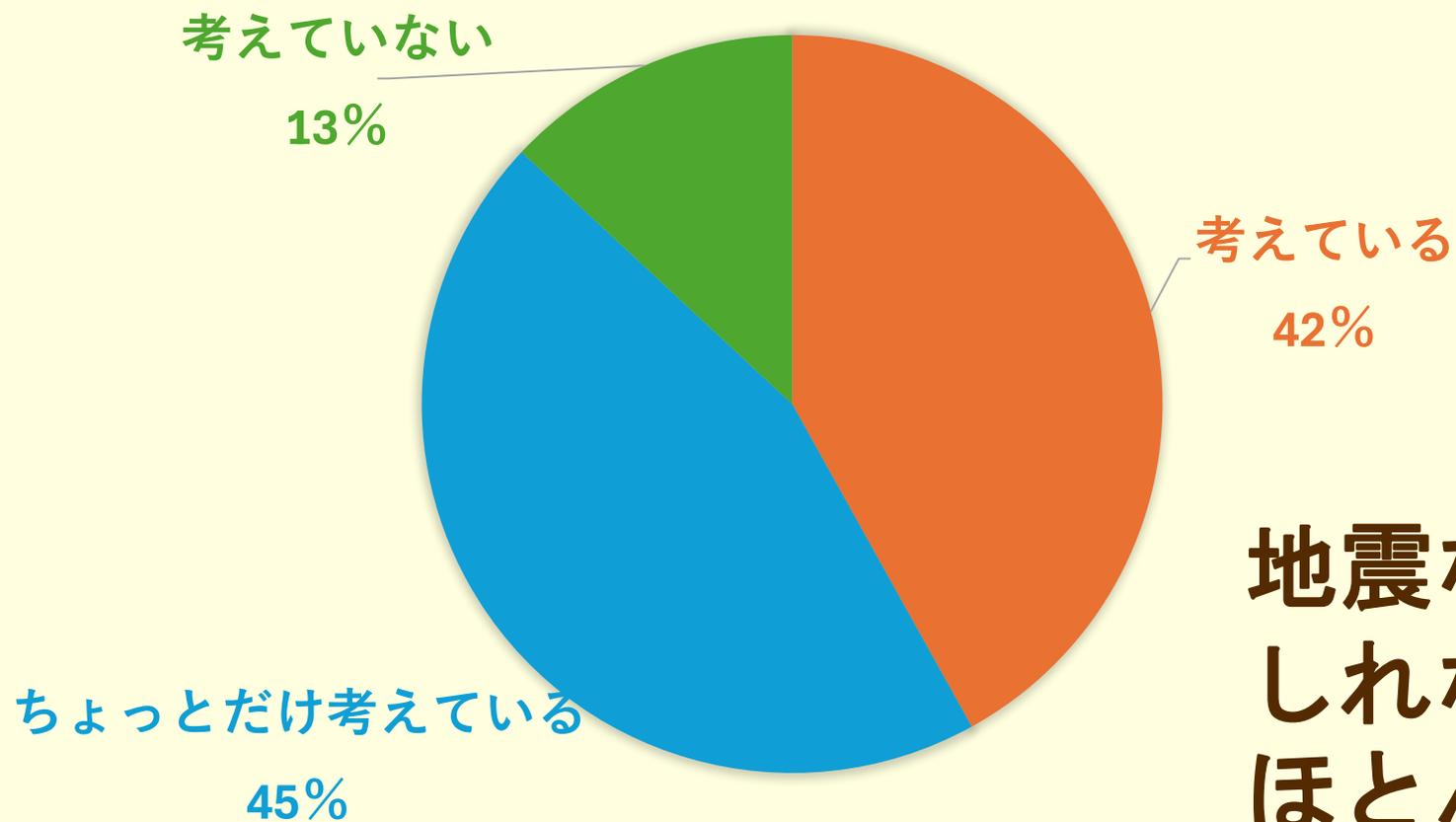
アンケート調査実施方法

- ・対象...下馬・野沢地区小学5年生と6年生
 - ・各小学校に11月から12月にGoogleフォームでアンケート実施
- 3校の小学校から422人が回答



調査結果①

普段から災害が起こるかもしれないと考えていますか？



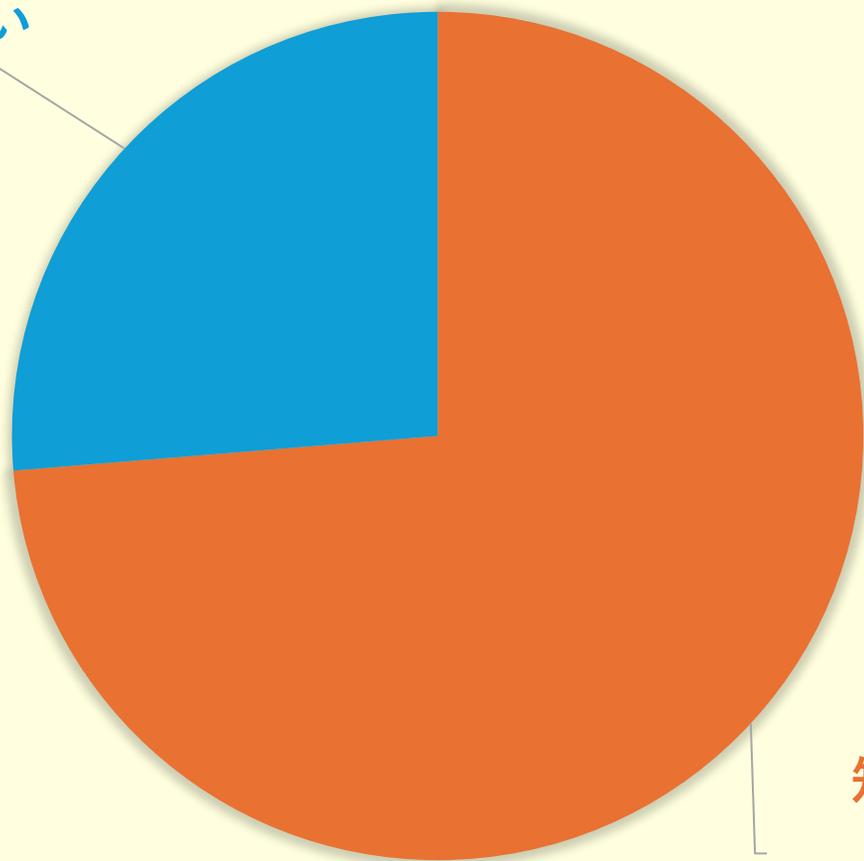
地震などが今起こるかもしれないと考えている子がほとんど

調査結果②

避難所、避難場所を知っているか

* 避難所、避難場所の区別はできていない

知らない
26%

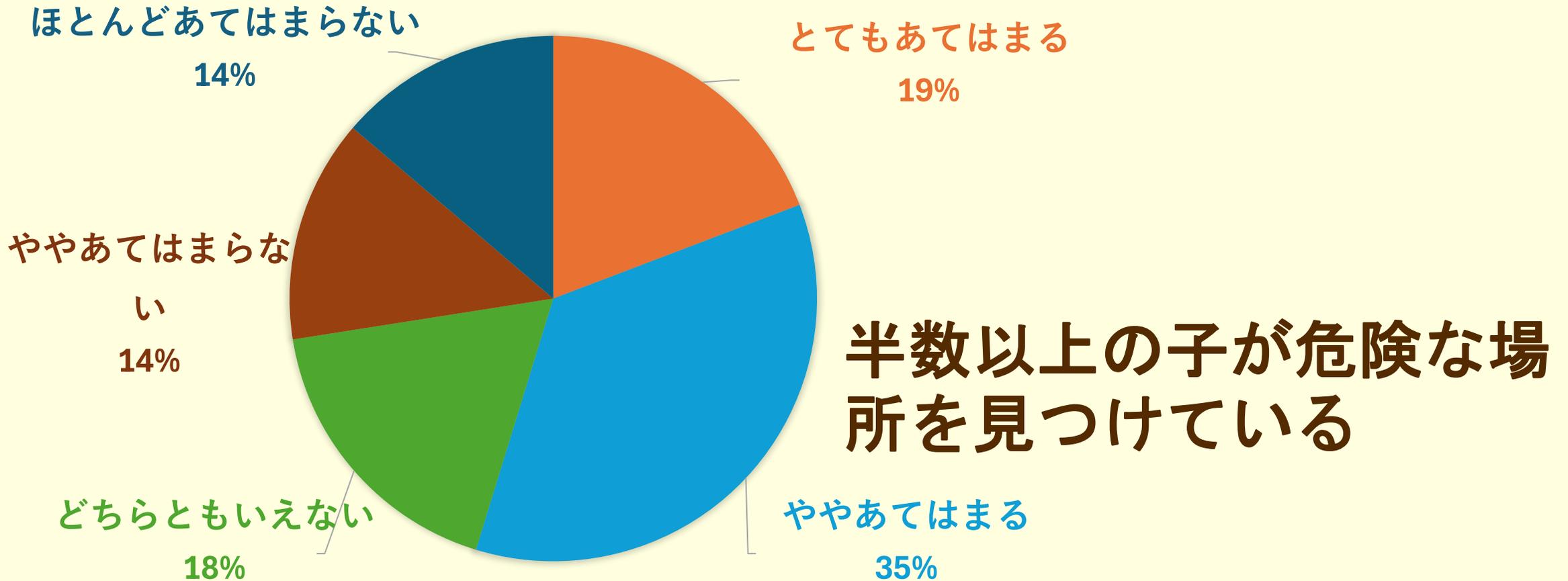


知っている
74%

半数以上の子が避難できる場所を知っている

調査結果③

通学路の危険な場所を知っているか



知った経緯

多かった回答・・・

- ・ 学校に通っているうちに
- ・ 遊んでいるうちに
- ・ 習い事に行く途中に見つけた
- ・ よく散歩をするから
- ・ 家族に教えてもらった
- ・ マップで確認した

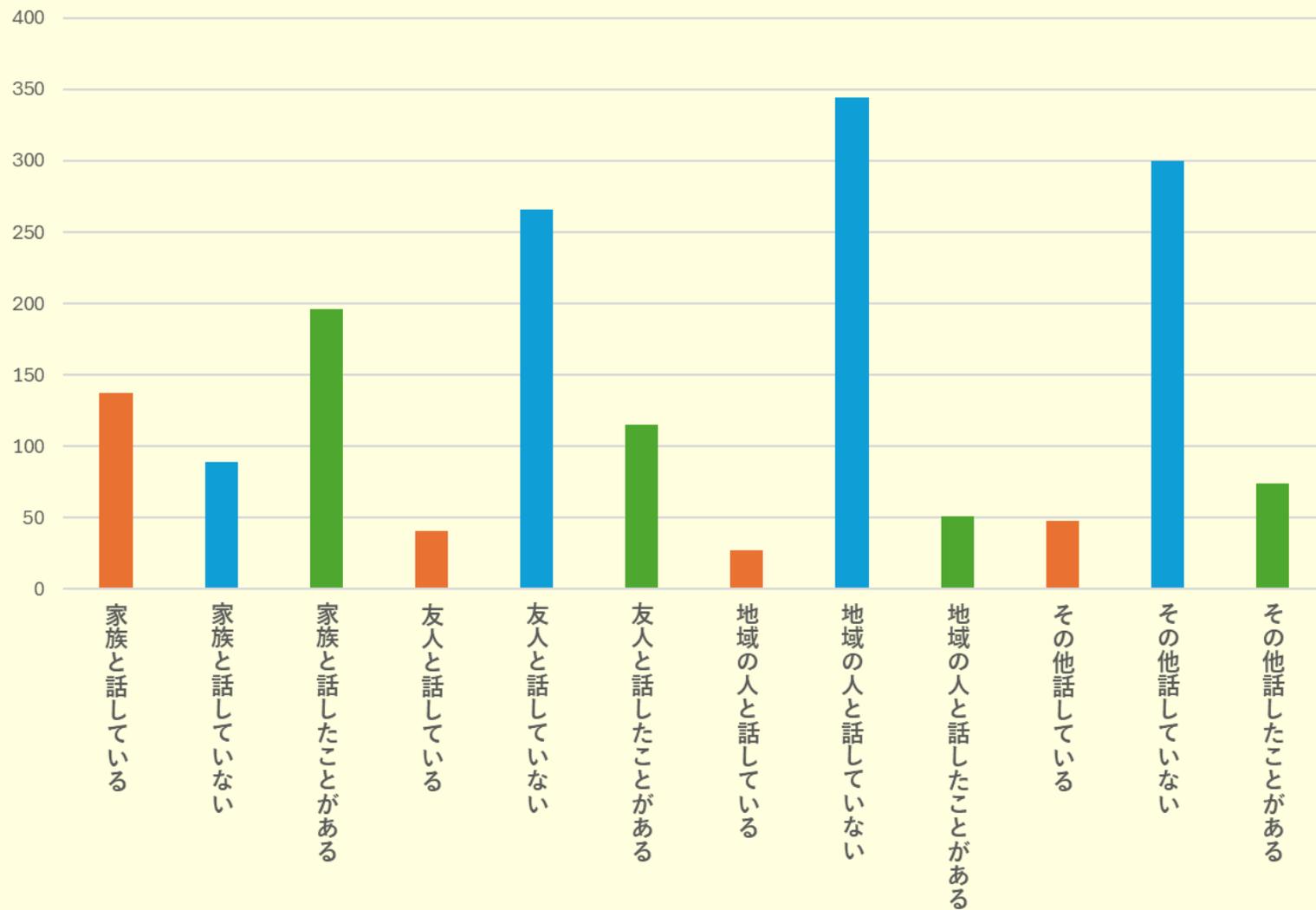
結果①、②、③より

- ・ 危険な場所を把握している、災害が起こるかもしれないと考えている
- ・ 災害が起こった時に避難できる場所を把握している

→ 防災に関する意識は高い

調査結果④

身の周りの人と災害が起こった時について話しているか

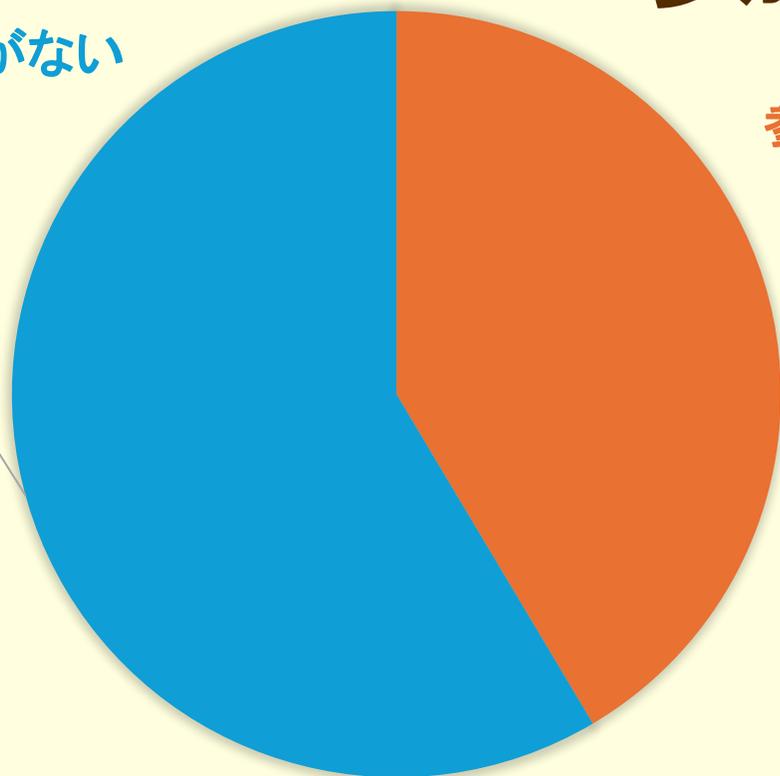


家族とは話すことがあっても他の人とは話していない

調査結果⑤

学校で行われる防災訓練以外で
地域の防災に関わる行事に
参加したことがあるか

参加したことがない
59%



参加したことがある
41%

参加したことがない子の
のほうが多い
→意識が高いからといって
地域行事などの行動に
つながるわけではない

課題

- ・ こどもたちの意識は高いが、家庭内でのコミュニケーションに限る
- ・ イベントには参加していない
→ 実際に災害が起こった時に
行動できない可能性がある
- ・ 災害についてもっと学べたり
体験できたりする機会があったほうがよい

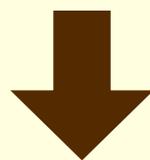
解決策

- ・ 地域が子どもたちに気軽に防災への意識を活かすことができる場所の提供
(放課後の少しの時間でも災害について知ったりできるようなイベント)
- ・ 色々な人と話すことができる機会を設ける

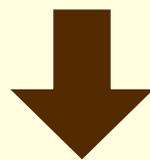
(2) 避難支援調査

先行研究の結論

- ・名簿・計画は整っていても実働に結びつかない
- ・行政は地域共助を想定、住民は公助を期待



情報共有の不備・個人情報保護の壁・
地域コミュニティの弱体化が支援の妨げとなっている。



共通構造 「制度や計画はあるが、現場で機能しない」

●手段

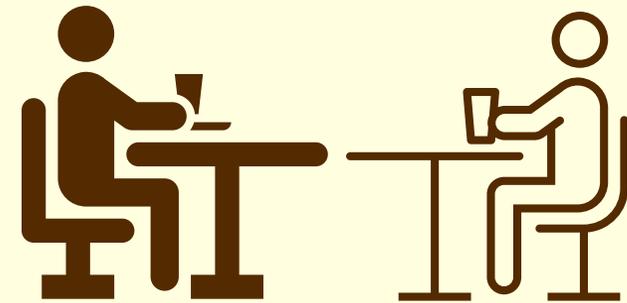
町会長や住民、区の職員の皆様にお話を伺う

●対象者

- ・ **下馬・野沢【町会長】**(6町会)
- ・ **【住民】**(6町会)

(下馬自治会連合会10町会のうち)

- ・ 世田谷区 世田谷総合支所 **地域振興・防災担当者**
下馬まちづくりセンター



要支援者把握

避難支援

【現状】

- ・要支援者の把握は主に民生委員
- ・町会としての名簿・安否確認体制は不十分
- ・避難行動要支援者協定は
→ **人手不足・負担感から未締結**／継続に迷い

【当事者の課題】

- ・「誰が」「どこまで」支援するのか**不明確**
- ・プライバシーの問題と情報提供
- ・支援する側の高齢化・なり手不足

【解決策】 人的体制・組織運営 ／ 要支援者支援

人的体制・組織運営

- 町会が担う役割を**限定・明確化**する
- 役員以外が関われる補助的役割を想定
- 「すべてを担う組織」からの転換

要支援者支援

- **町会単独責任としない前提**の共有
- 町会と近隣住民の役割分担
- 平時にできる支援・できない支援を整理

防災マップ・マニュアル

在宅避難

防災マップ・マニュアル

- 配布はされているが**活用に差**がある
- 独自マニュアル作成の余力がない
- 情報が多く重要点が分かりにくい

在宅避難

- インフラ長期停止への不安
- 火災など地域特性への懸念
- 家庭ごとの**備蓄・情報格差**

【解決策】 防災マップ・マニュアル / 在宅避難

防災マップ・マニュアル

- **既存資料の要点を抜き出して活用**
- 防災訓練で実際に使う場面を設ける
- 紙1枚程度の簡易行動整理

在宅避難

- 短期間対応として現実的に位置づけ
- 最低限の備え・心構えの周知
- **避難所との併用を前提に考える**

避難所への不安

情報・意識の課題

避難所への不安

- トイレ・寝る場所・物資不足への不安
- 高齢者・歩行困難者への配慮不足への懸念
- 避難所が満員になることへの不安

情報・意識の課題

- 行政の避難支援体制を知らない住民が多い
- 災害時の行動が具体的にイメージできていない
- 危機意識に個人差がある

【解決策】 避難所 / 情報共有・住民意識

避難所

- 避難所でできること・できないことを**事前に共有**
- **避難者自身**が運営に関わる前提を周知
- 過度な期待を持たない現実的理解

情報共有・住民意識

- 紙・掲示・回覧など複数手段での情報発信
- 知らないことを**前提**にした分かりやすい周知
- 防災を日常の**延長**として捉える意識づくり

【制度・計画・避難行動要支援者対応】

制度・計画

- 世田谷区地域防災計画を策定
- **避難行動要支援者避難支援プラン**を作成
- 地区計画・街づくり施策を制度として整備
- 世田谷区街づくり条例を制定

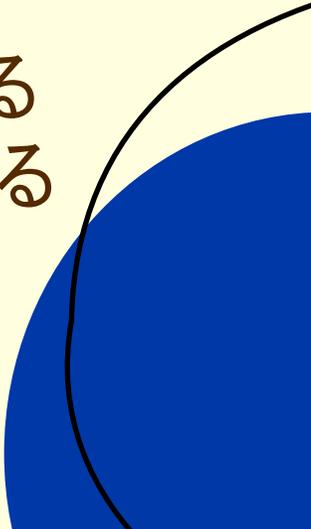
避難行動要支援者対応

- **避難行動要支援者名簿**を作成
名簿情報を町会・自治会・民生児童委員に提供
- 避難行動要支援者の避難支援体制を整備
- 本人同意のもと個別避難計画を作成
- 個別避難計画を関係者間で共有

制度・計画と運用のギャップ

- ・防災計画や避難行動要支援者支援制度は整備されている
- ・**実際の運用**は町会・自治会や避難所運営委員会に委ねられている
- ・運営の内容や対応水準に地域差が生じる可能性がある

避難所における**要支援者対応**のばらつき

- ・高齢者・要配慮者専用スペースの設置は「**推奨**」にとどまっている
 - ・**実際の設置**や運用は避難所運営委員会の判断に委ねられている
 - ・対応に差が生じる可能性がある
- 

まとめ

課題

- ・災害時の**行動が「具体的にイメージできない」**
- ・町会・自治会の**負担が多くなってしまう**

解決策

- ① 「役割と行動を“体験で共有” 地域防災の仕組みづくり
 - ・ 小規模・短時間・**同じ場で**行動を確認(**役割入れ替えも**)
 - ・ 個別避難計画を訓練に組み込み実効性を検証
- ② 町会に依存しすぎない“分散型”防災体制への転換
 - ・ 町会役員以外の住民による担当 負担を細分化
 - ・ 行政は現場任せにせず継続的に伴走支援

▶ 期待される効果

- ・ 行政計画と現場実態のズレを修正できる
- ・ 「どこまで・誰がやるか」が明確になる
- ・ 住民の「誰かが、町会がやってくれる」意識の転換

災害対応を“特別な人の仕事”から“地域全体の行動”に

「地域全体で行動を共有」

「負担を分散する防災体制の構築」

(3) 避難経路調査

先行研究

「災害時の備えと防災意識に関する
アンケート調査」

- 高齢になるほど、世帯人数が少ないほど避難に対する**意識が低い**
- **二人暮らし以下**の高齢者の世帯は避難に関する意識が低い

平時からサポート等の**共助**が必要

研究方法

- ・高齢者(60歳以上)が想定している避難経路について
- ・アンケート調査... 22人

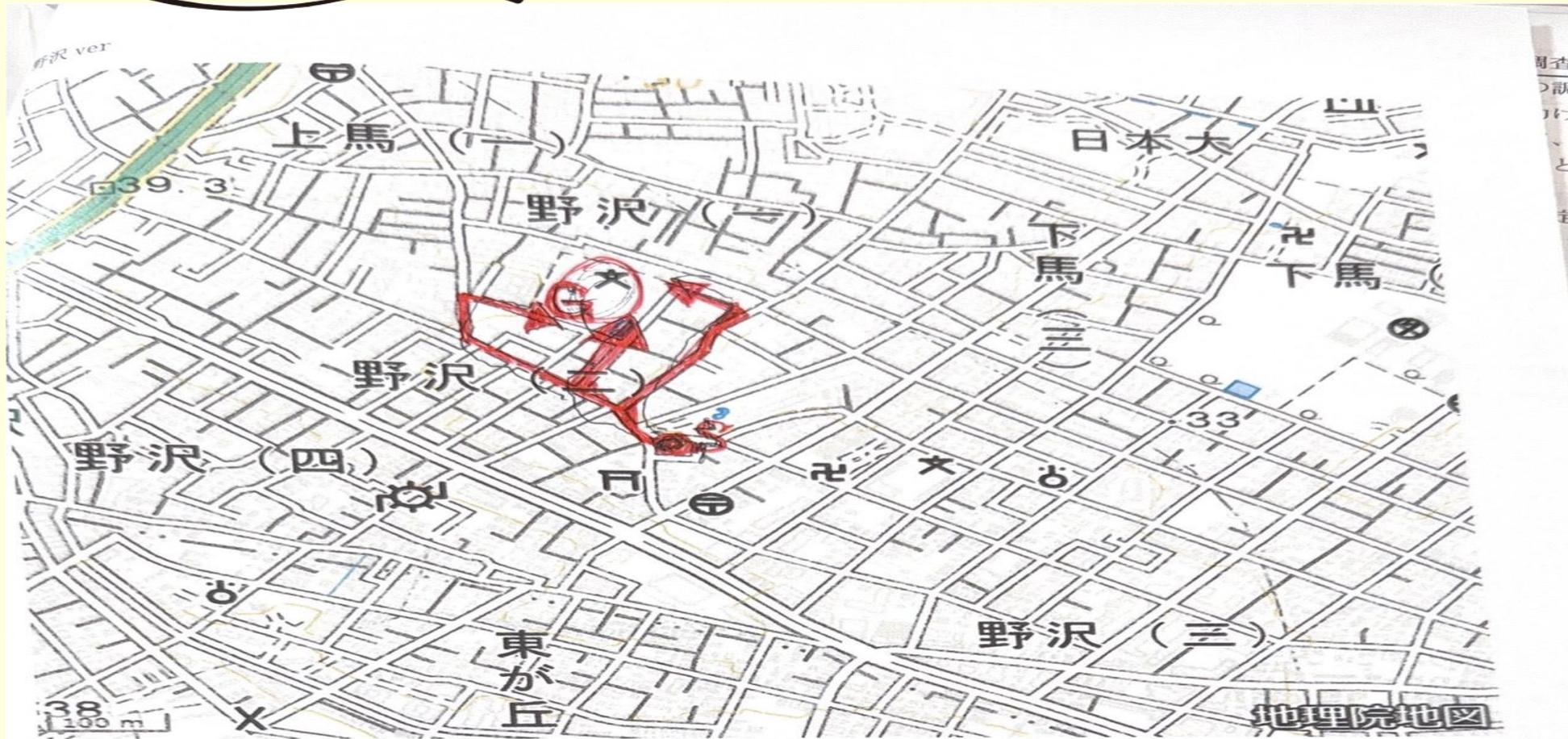
下馬・野沢地区の町会員を対象にしたアンケートを実施

聞き取り調査の内容

- 基本情報(年齢等)
- 避難に関する意識
- 避難経路の把握
- 避難経路のパターン、選択理由

研究方法

想定している避難経路を
地図上に記載してもらおう

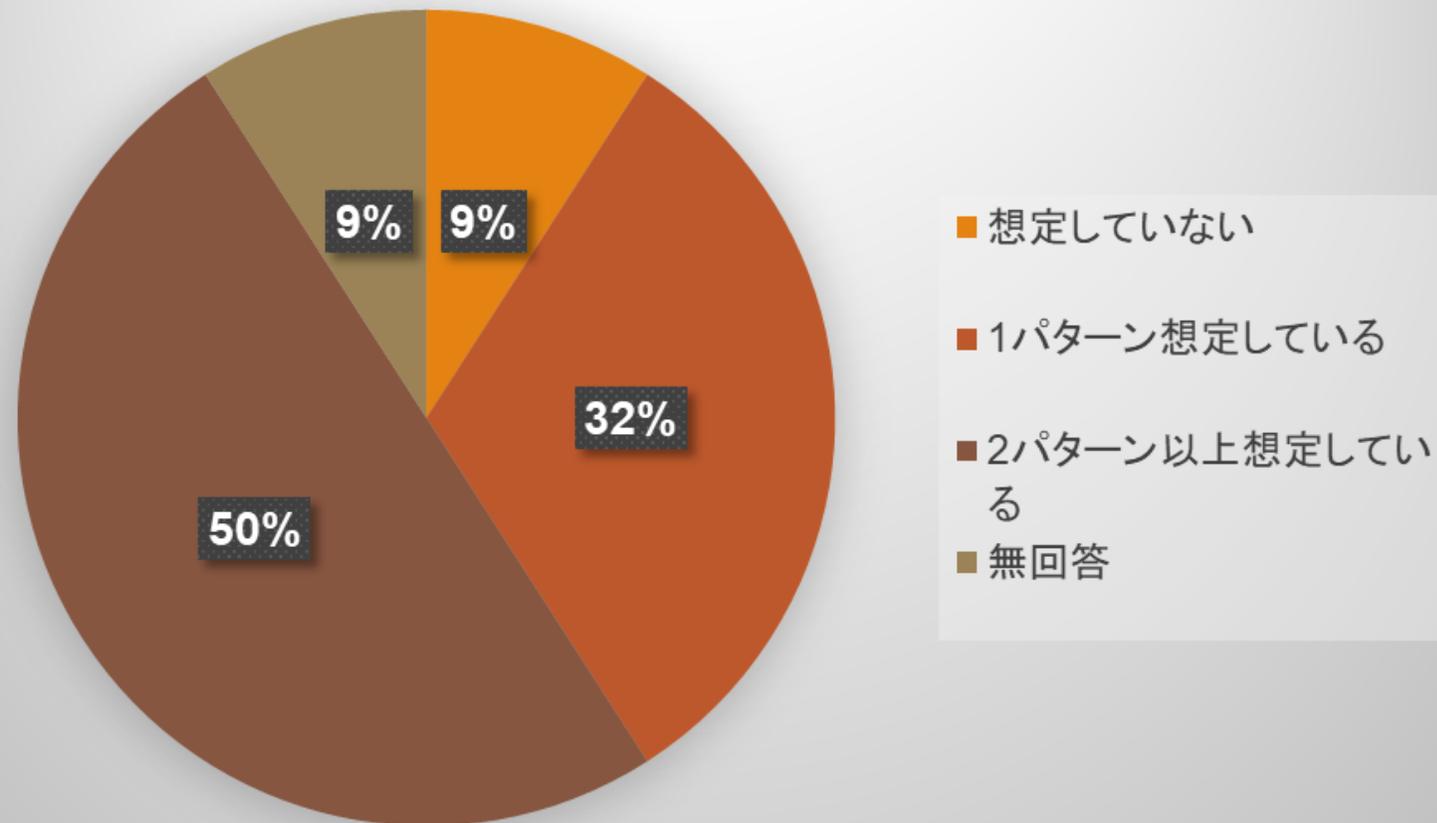


出典：地理院タイル（国土地理院）

記述欄

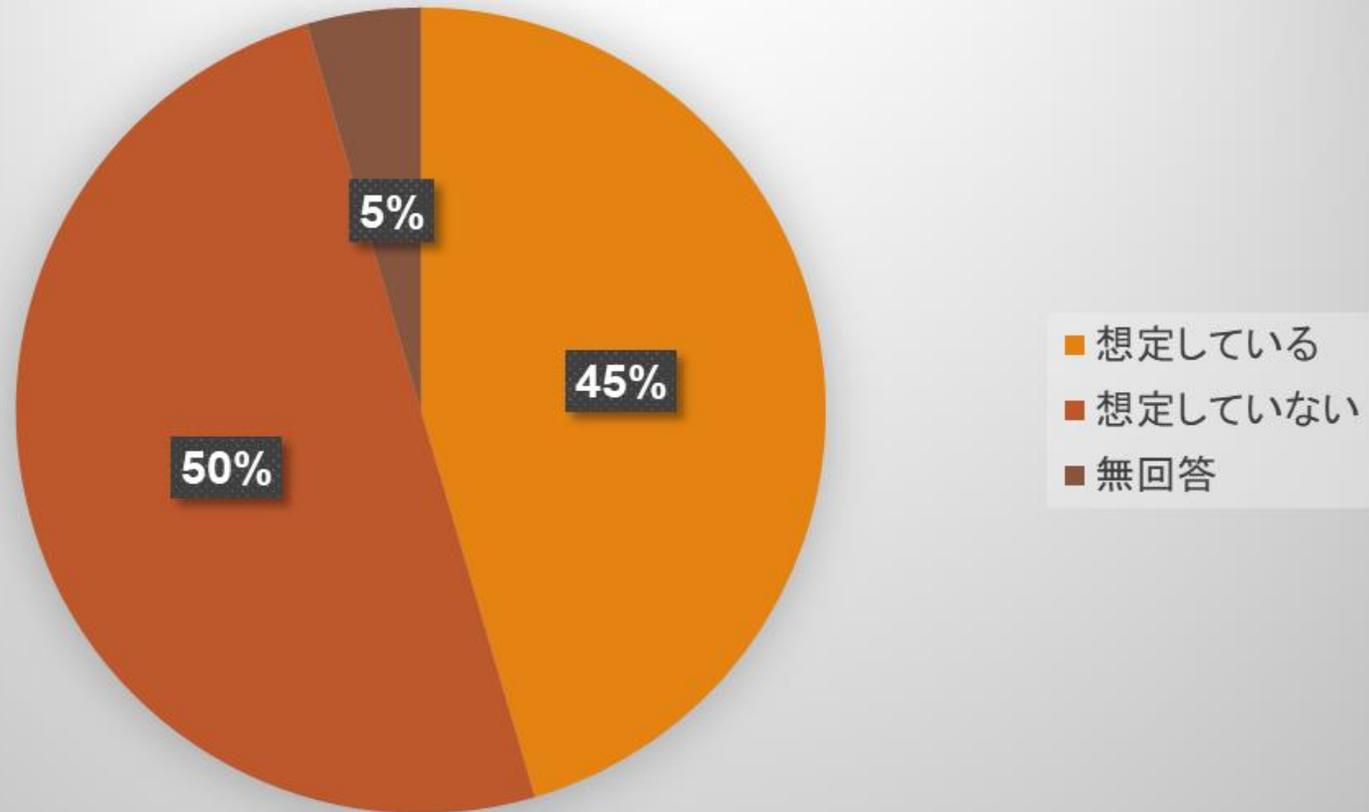
調査結果

高齢者の避難経路想定



調査結果

危険箇所の想定



調査結果

避難経路を

- 「想定していない」 : 9%
- 「1パターン以上想定している」 : 82%

避難経路での

- 「危険箇所等を検討していない」 : 50%

一時集合所までの避難経路を「歩きやすい道」や

「親しみ慣れている道」で選択し、

危険箇所等を検討していないという結果となった

考察

○「避難経路パターン」の実態

- ・想定していても“代替性”が弱い
- ・経路を「1~3通り」想定している回答が多い一方で

危険箇所の検討がないケースが目立つ

(火災の延焼拡大などの二次災害により

屋外への避難を選択しなければならない場合

想定していた経路が寸断されると安全に避難できない可能性がある)

- ・「複数パターンを考えている=安全」ではない

各パターンのリスクと代替性まで考える ← 重要

→危険箇所の見える化 経路の危険箇所の把握

課題

1. 避難経路を決めていても、**安全性の視点が弱い**

→いつも使用している道が使えるのか？

(家屋の倒壊や電柱の倒壊、上下水道の破裂など)

2. 「慣れた道」を選ぶ傾向が強い 危険想定が不足

→普段使用する道の**安心感**から、

複数経路の想定がない点

3. 代替経路が**実際に機能**するかまで検証されていない

→普段使わない道であるため、

災害が起こった際に使用することができかわからない

改善案

- ・ 避難経路を**最低2ルート＋危険箇所チェック**を

セットで推奨

→ 例】 塀・電柱・狭隘路・崖・放置物・延焼しやすい区間を

地図上で印付け、危険箇所を家庭で把握

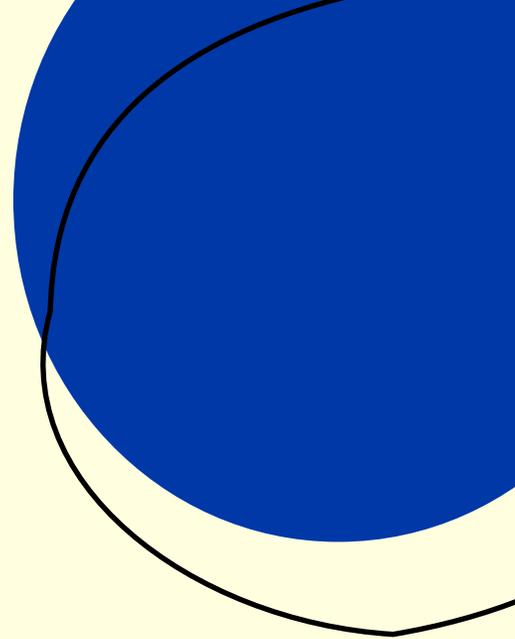
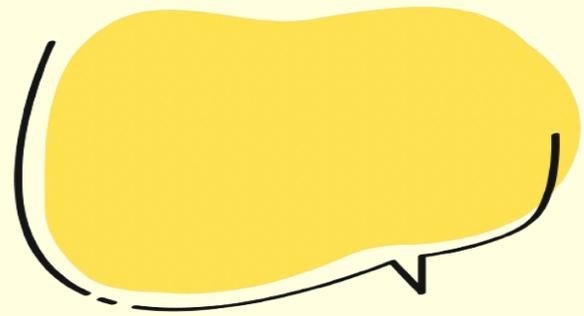
- ・ 「**歩いて確認する**」取り組み

→ 実際に歩くと、段差・暗さ・見通し・混雑など

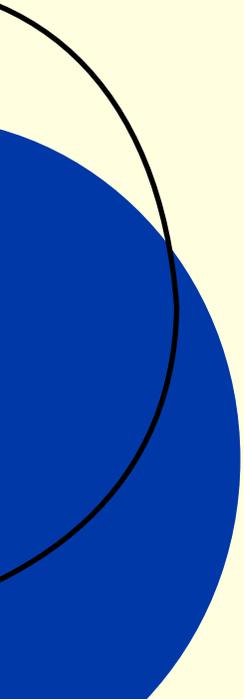
机上では見えない**弱点**がみえる

「災害が発生した際にこの避難経路を使用できるのか」

「**優先順位をつけて考えることが必要**」



3つの調査 まとめ



3つの調査 まとめ

子ども意識 調査

子どもたちの**意識はある**！

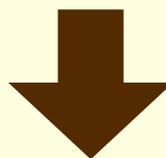
↓
その意識を活かせる機会が少ない

↓
地域が意識を活かせる、知識を深められる
場所を**提供**する

避難支援 調査

災害対応を地域全体の行動へ

行動がイメージできない 町会に負担が集中



同じ場で行動を確認 体験共有

役割の明確化 町会に依存しすぎない 分散型防災へ



「地域全体で行動を共有」
「負担を分散する防災体制の構築」

避難経路 調査

避難経路を想定している住民は多い



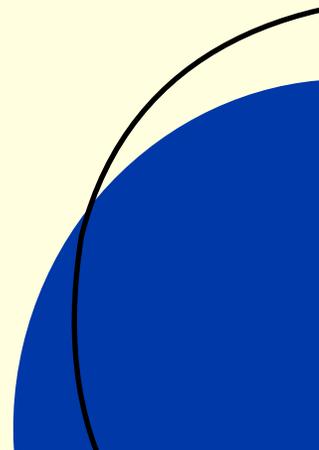
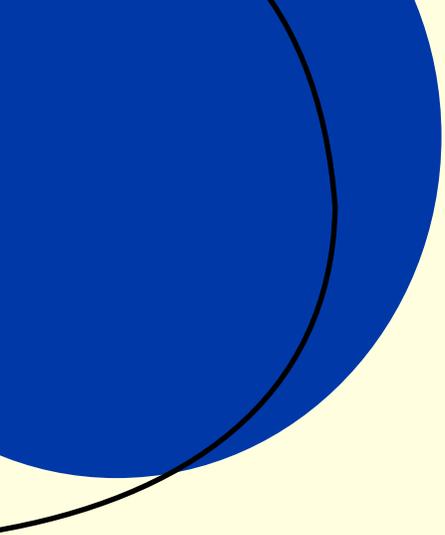
慣れた道・歩きやすい道を選び、危険箇所の検討が不足
災害時に想定経路が使えなくなる可能性



実効性のある避難行動が取れない不安



危険箇所を含めた複数避難経路の共有が必要



参考文献

参考文献

- ・世田谷区ホームページ

<https://www.city.setagaya.lg.jp/02049/26890.html>

(最終閲覧日1月18日)

- ・「東京23区 子育てしやすい街、子供の数が多い・増えている区ランキング」
マンションくらし研究所

<https://mansionmarket-lab.com/tokyo-children-population#23>

(最終閲覧日1月18日)

- ・「こどもの防災に関する意識調査」結果 株式会社バンダイ

<https://www.bandai.co.jp/kodomo/>

(最終閲覧日1月18日)

- ・「子どもがいる家庭の防災意識に関する実態調査」株式会社明光ネットワークジャパン

<https://prt看imes.jp/main/html/rd/p/000000127.000071552.html>

(最終閲覧日1月18日)

参考文献

・横山順一.2011年「自然災害時における高齢者等の要援護者の避難支援と地域ネットワークの導入」

四天王寺大学大学院研究論集/四天王寺大学大学院研究論集委員会編.6号,p21-35

<https://www.shitennoji.ac.jp/assets/images/research/library/repo/grad06/in06-03.pdf> (2025/12/17)

・西尾美登里ほか.2018年「独居高齢者への災害対策の情報提供における研究」バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌.Vol20,No1,pp23-28.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jbfsa/20/1/20_23/_pdf/-char/ja (2025/12/17参照)

・一般財団法人 日本防火・危機管理促進協会.2023年3月「高齢者・障害者の防災施策に関する調査研究」.令和4年度危機管理体制調査研究報告書

https://www.boukakiki.or.jp/crisis_management/library/report/R4chousa_houkoku.pdf (2025/12/17参照)

・公益財団法人 東京市町村自治調査会.2022年3月「多摩・島しょ地域自治体における避難・避難所のあり方に関する調査研究報告書」.2025/04/10

<https://www.tama-100.or.jp/0000001078.html> (2025/12/27参照)

・世田谷区.“避難行動要支援者安否確認訓練を実施しました”. 2026/01/09最終更新

<https://www.city.setagaya.lg.jp/01008/28450.html> (2026/01/14参照)

・世田谷区.“世田谷区避難行動要支援者避難支援プラン”. 2022/06/17最終更新

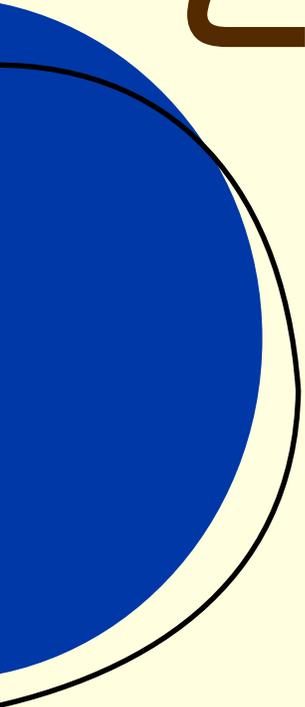
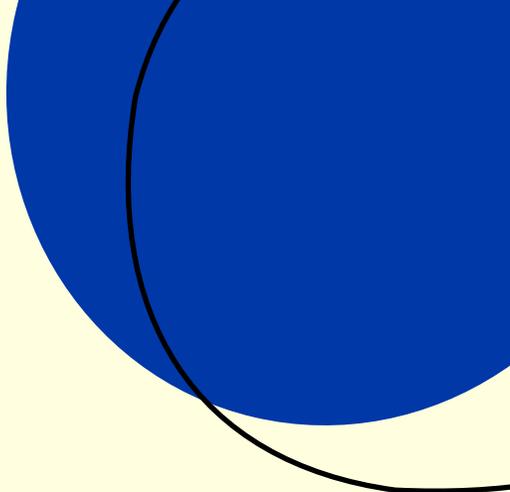
<https://www.city.setagaya.lg.jp/documents/670/hinanshienplan.pdf> (2026/01/06参照)

・世田谷区.“世田谷区地域防災計画[令和7年修正] 本編について” 2025/04/25最終更新

<https://www.shitennoji.ac.jp/assets/images/research/library/repo/grad06/in06-03.pdf> (2026/01/15参照)

参考文献

- ・牛山素行, 横幕早季: 人的被害の特徴, 災害情報10: 7-13, 2012
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasdis/10/0/10_7/_pdf/-char/ja (2026/1/19参照)
- ・「下馬地区防災計画」(令和7年)
http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/research/publications/_docs/img-714183557.pdf (2026/1/19参照)
- ・京田薫.2017年10月「地域に住む高齢者における自然災害への備えの実態と避難行動に対する認識の影響要因」金大医保つるま保健学会誌 p84—p86
<https://kanazawa-u.repo.nii.ac.jp/records/16069> (2026/1/19参照)
- ・樋口佳樹,2020年3月「災害時の備えと防災意識に関するアンケート調査」空気調和・衛生工学論文集 p3—p4
https://www.jstage.jst.go.jp/article/shase/45/276/45_1/_pdf/-char/ja (2025/12/15参照)
- ・馬淵ゆみ.2008年「木造密集地域における地震時の広域火災に対する 避難計画に関する研究」地域安全学会論文集 p409—p411
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jisss/10/0/10_409/_pdf/-char/ja (2025/12/15参照)
- ・世田谷区の町名別の年齢別人口(10歳毎)
•<https://www.city.setagaya.lg.jp/documents/5194/2025nenrei-machi.csv> (2025/12/14参照)



ご清聴ありがとうございました!!

